

東北地域の景況調査

平成 16 年（1～3 月期）

< 調査結果の概要 >

平成 16 年 5 月

東北電力株式会社

1. 業況および景気

各社の今期3カ月の業況判断(DI)は+7.1となり、前回1月調査(平成15年10~12月期判断DI: +14.0)と比べ、DIは6.9ポイント下降しているものの、3期連続でプラスを維持した。また、来期(平成16年4~6月期)の(DI)は、今期(7.1)に比べ3.3ポイント下降し、+3.8となるものの引き続きプラスを維持する見通しである。

一方、今期3カ月の国内景気判断はDIが+24.7となっており、前回1月調査(平成15年10~12月期判断DI: +16.8)よりも、DIはさらに7.9ポイント上昇している。

また、来期3カ月の各社業況見通しDI(+3.8)と国内景気見通しDI(+21.4)を比較すると、業況に対する見方の方が厳しくなっている。

注1: 今期3カ月の判断 : 平成16年1~3月期(対平成15年10~12月期比)

来期3カ月の見通し: 平成16年4~6月期(対平成16年1~3月期比)

注2: 文中の「DI」とは「上昇」-「下降」社数構成比および「増加」-「減少」社数構成比を表している。

(1) 各社の業況判断

今期3カ月(平成16年1~3月期)の各社業況判断は、「上昇」が26.4%、「下降」が19.3%で、DIは+7.1となっている。前回1月調査(平成15年10~12月期判断DI: +14.0)と比べると、DIは6.9ポイント下降しているものの、3期連続でプラスを維持している。

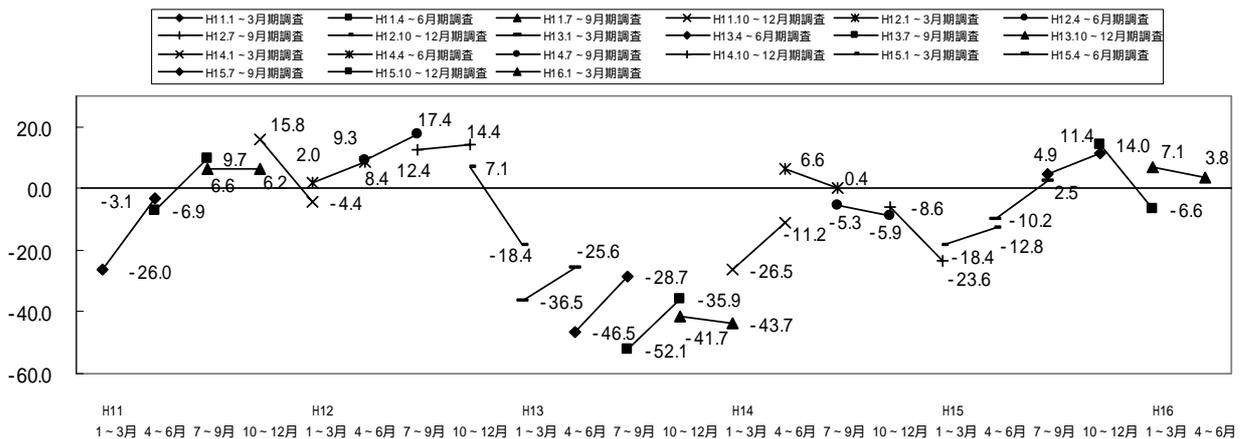
来期3カ月(平成16年4~6月期)の見通しは、DIが今期3カ月(+7.1)に比べ3.3ポイント下降し+3.8となるものの、引き続きプラスを維持する見通しである。

各社業況判断



前回調査(平成16年1月調査)での1~3月期の(DI)見通し 6.6に対し、今回調査(平成16年4月調査)での1~3月期の(DI)判断では、+7.1となっており、見通しより13.7ポイント上方修正されている。

各社業況判断(前回調査・今回調査)



< 今期 3 ヶ月の上昇理由・下降理由 >

今期 3 ヶ月で「上昇」と回答した各社(166 社中:154 社)の主な上昇理由(複数回答)は、「国内需要増による生産増(72.7%)」が圧倒的に多く、次に「海外需要増による生産増(47.4%)」、「国内他工場からの生産移管による生産増(11.0%)」が続いており、国内外の需要増が大きな要因となっている。

一方、「下降」と回答した各社(121 社中:113 社)の主な下降理由(複数回答)は、「国内需要減による生産減(73.5%)」が圧倒的に多く、次に「製品出荷価格の低下(31.9%)」、「原材料調達コストの上昇(29.2%)」、「海外需要減による生産減(10.6%)」が続いている。

上昇理由		下降理由	
(N=154)		(N=113)	
国内需要増による生産増	72.7%	国内需要減による生産減	73.5%
海外需要増による生産増	47.4%	製品出荷価格の低下	31.9%
国内他工場からの生産移管による生産増	11.0%	原材料調達コストの上昇	29.2%
人件費の削減	7.8%	海外需要減による生産減	10.6%
製品出荷価格の上昇	6.5%	国内他工場への生産移管による生産減	8.0%
原材料調達コストの低減	6.5%	人件費の増加	4.4%
建設・設備コストの低減	0.6%	為替要因	3.5%
為替要因	0.6%	建設・設備コストの上昇	2.7%
金利負担減	0.0%	金利負担増	1.8%
その他	6.5%	その他	10.6%

< 来期 3 ヶ月の上昇理由・下降理由 >

来期 3 ヶ月の見通しで「上昇」と回答した各社(131 社中:130 社)の主な上昇理由(複数回答)は、「国内需要増による生産増(75.4%)」が圧倒的に多く、次に「海外需要増による生産増(43.1%)」、「製品出荷価格の上昇(13.1%)」、「国内他工場からの生産移管による生産増(11.5%)」、「人件費の削減(10.0%)」が続いており、今期 3 ヶ月と同様に国内外の需要増が大きな要因となっている。

一方、「下降」と回答した各社(107 社中:105 社)の主な下降理由は、「国内需要減による生産減(73.3%)」が圧倒的に多く、次に「原材料調達コストの上昇(40.0%)」、「製品出荷価格の低下(27.6%)」、「海外需要減による生産減(11.4%)」が続いている。

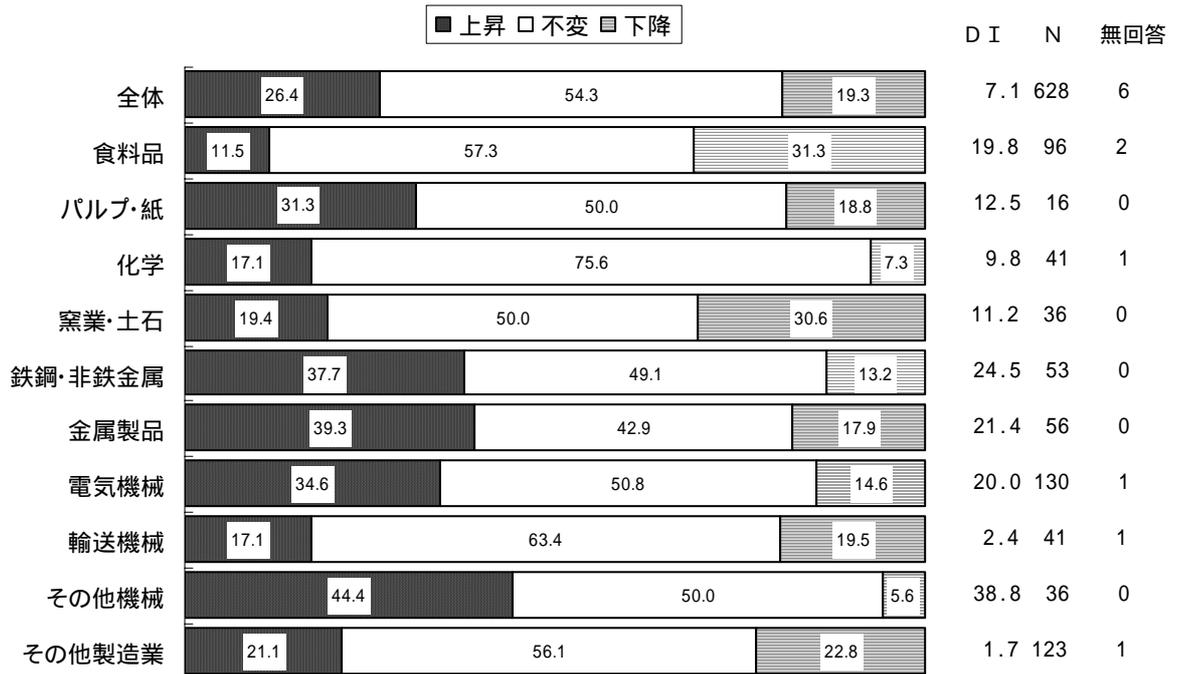
上昇理由		下降理由	
(N=130)		(N=105)	
国内需要増による生産増	75.4%	国内需要減による生産減	73.3%
海外需要増による生産増	43.1%	原材料調達コストの上昇	40.0%
製品出荷価格の上昇	13.1%	製品出荷価格の低下	27.6%
国内他工場からの生産移管による生産増	11.5%	海外需要減による生産減	11.4%
人件費の削減	10.0%	国内他工場への生産移管による生産減	8.6%
原材料調達コストの低減	6.9%	為替要因	5.7%
建設・設備コストの低減	0.8%	人件費の増加	5.7%
為替要因	0.0%	建設・設備コストの上昇	1.0%
金利負担減	0.0%	金利負担増	1.9%
その他	6.2%	その他	9.5%

<業種別で見た業況判断・見通し>

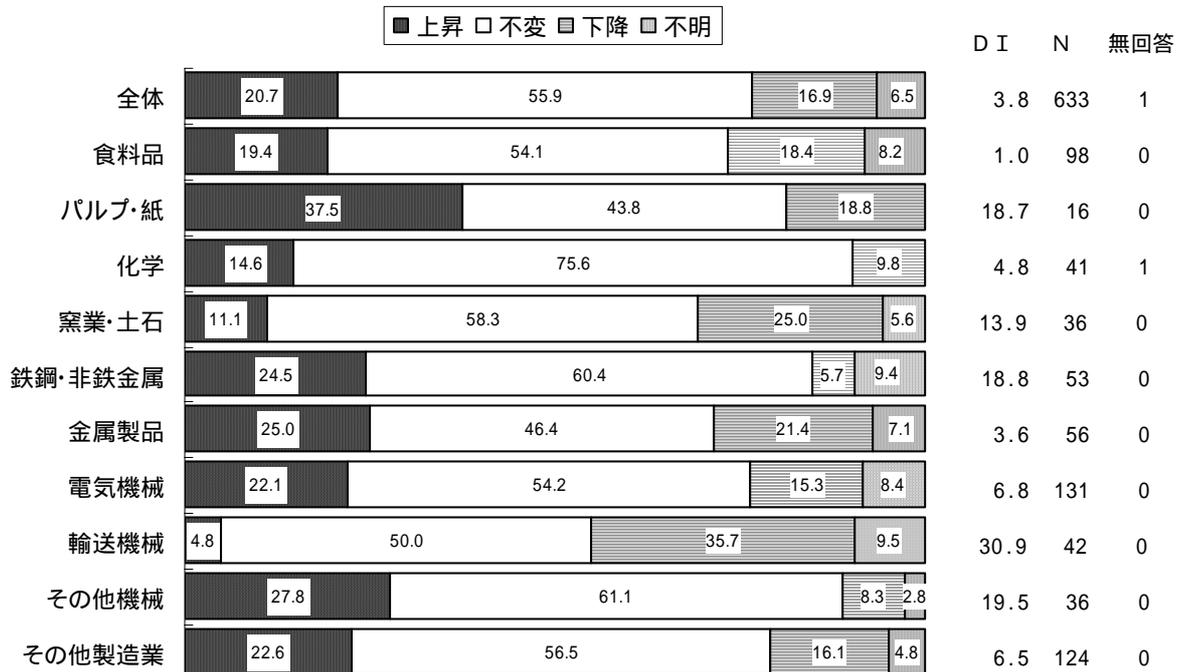
業種別で見ると、今期3カ月の業況判断(DI)は、食料品(19.8)、窯業・土石(11.2)、輸送機械(2.4)、その他製造業(1.7)を除く業種でプラスとなっており、中でも<鉄鋼・非鉄金属(+24.5)、金属製品(+21.4)、電気機械(+20.0)、その他機械(+38.8)ではプラス幅が20以上と大きい。

来期3カ月の見通し(DI)は、窯業・土石(13.9)、輸送機械(30.9)を除く業種でプラスとなっており、中でも<パルプ・紙(+18.7)、鉄鋼・非鉄金属(+18.8)、その他機械(+19.5)ではプラス幅が10以上と大きい。

業種別：今期3カ月の各社業況判断



業種別：来期3カ月の各社業況の見通し

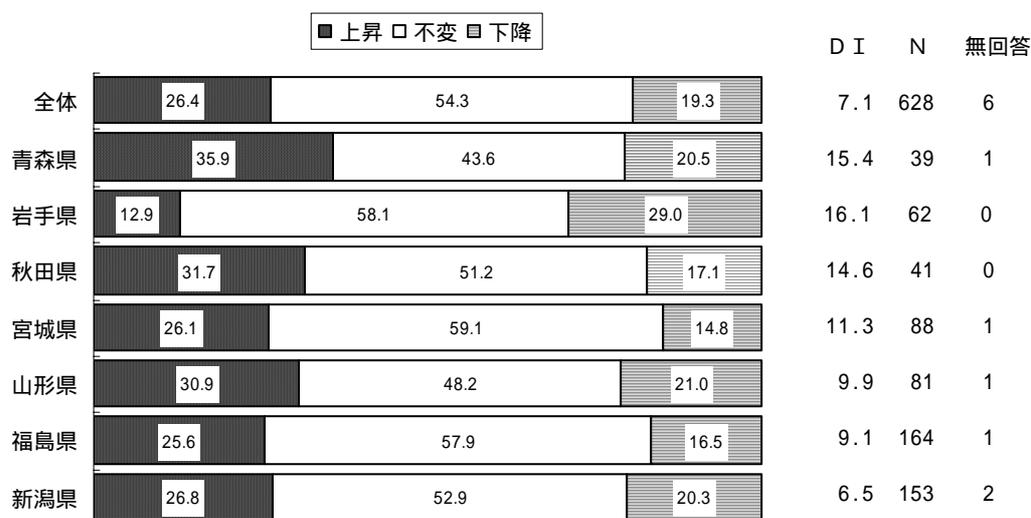


< 県別に見た業況判断・見通し >

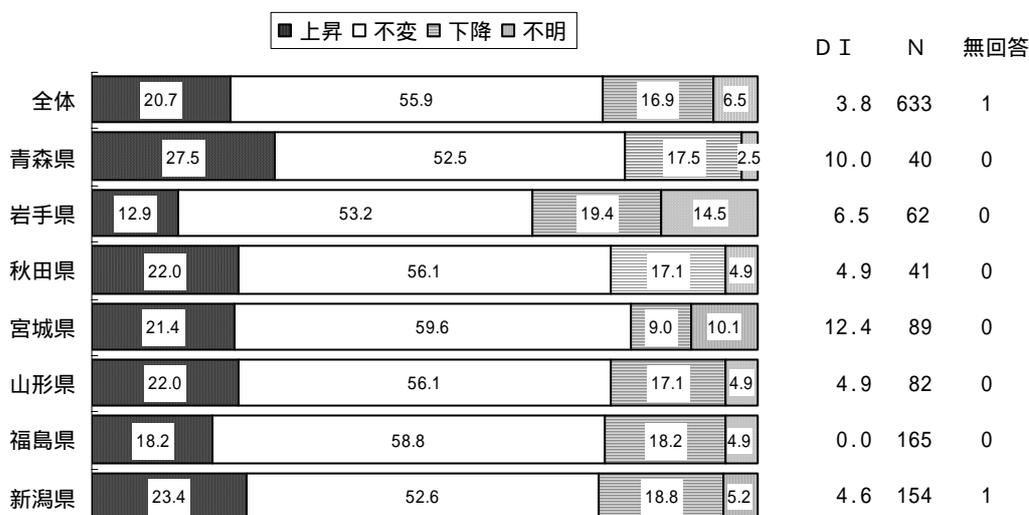
県別で見ると、今期3カ月の業況判断(DI)は、<岩手(16.1)>を除く全ての県でプラスとなっており、中でも<青森(+15.4)>、<秋田(+14.6)>、<宮城(+11.3)>ではプラス幅が10以上と大きい。

来期3カ月の見通し(DI)は、<岩手(6.5)>を除く全ての県でプラスとなっており、中でも<青森(+10.0)>、<宮城(+12.4)>ではプラス幅が10以上と大きい。

県別：今期3カ月の各社業況判断



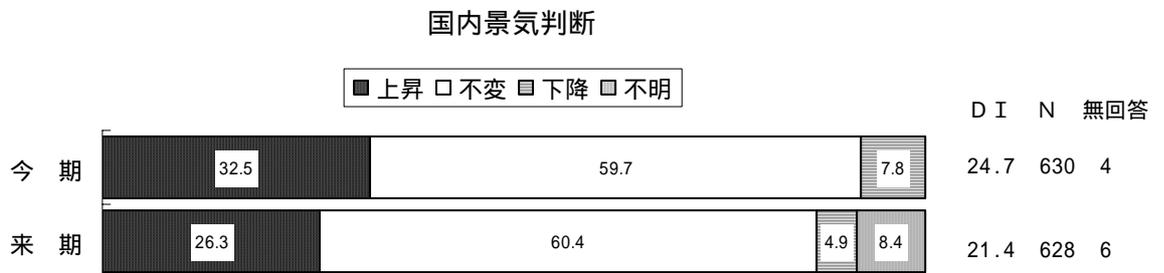
県別：来期3カ月の各社業況の見通し



(2)国内景気

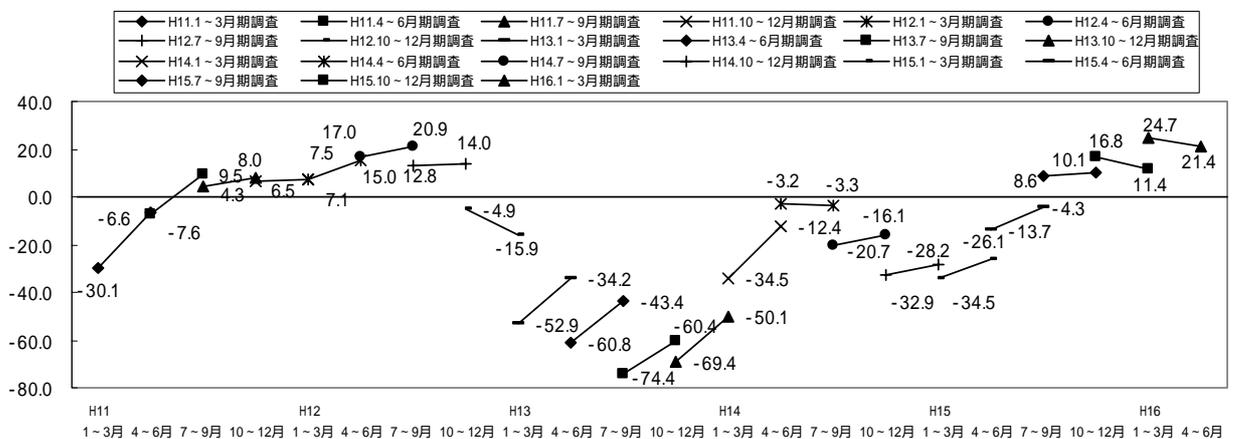
今期 3 カ月の国内景気判断は、「上昇」が 32.5%、「下降」が 7.8%で、D I は +24.7 となっており、本調査開始（平成 8 年 3 月）以降、最も高いプラスを記録。前回 1 月調査（平成 15 年 10～12 月期判断 D I：16.8）と比べ、D I は 7.9 ポイントも上昇している。また、今期 3 カ月の各社業況判断 D I（+7.1）と国内景気判断 D I（+24.7）との比較では、各社業況に対する見方の方が厳しい。

来期 3 カ月の国内景気の見通しは、D I が +21.4 と今期 3 カ月の国内景気判断 D I（+24.7）よりも 3.3 ポイント下降するものの、今期に引き続き 20 ポイント以上のプラス幅を維持する見通しである。また、来期 3 カ月の各社業況見通し D I（+3.8）と国内景気見通し D I（+21.4）を比較すると、業況に対する見方の方が厳しい見通しとなっている。



前回調査（平成 16 年 1 月）での 1～3 月期の（D I）見通しが +11.4 に対し、今回調査（平成 16 年 4 月）での 1～3 月期の（D I）判断では、+24.7 となっており、見通しより 13.3 ポイント上方修正されている。

国内景気判断(前回調査・今回調査)



2 . 生産設備

平成 15 年度下半期の生産設備(D I)は+15.2と2桁台の高いプラスとなっている。また、平成 16 年度上半期の見通し(D I)は+19.5で、平成 15 年度下半期と比べ、4.3ポイント上昇し引続き2桁台のプラスとなる見通しである。

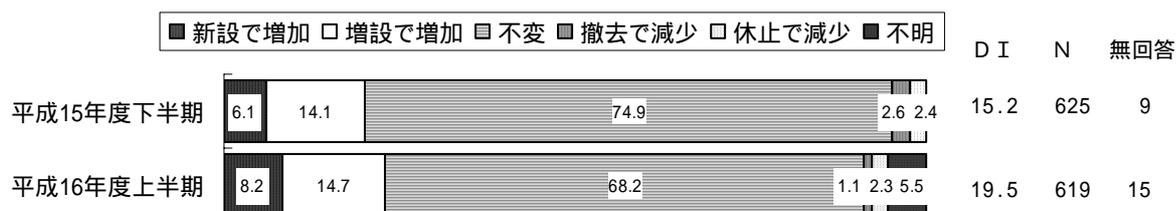
< 今期の状況 >

生産設備の平成 15 年度下半期の状況は、「新設で増加」が 6.1%、「増設で増加」が 14.1%で、これらを合わせた『増加』が 20.2%となっている。一方、「撤去で減少」が 2.6%、「休止で減少」が 2.4%で、これらを合わせた『減少』が 5.0%となっており、D I (『増加』 - 『減少』)は+15.2とプラスとなっている。

< 来期の見通し >

平成 16 年度上半期の見通しは、『増加』が 22.9%、『減少』が 3.4%で、D I は+19.5となっており、平成 15 年度下半期の生産設備D I (+15.2)と比べ、4.3ポイント上昇し引き続き2桁台のプラスとなる見通しとなっている。

生産設備

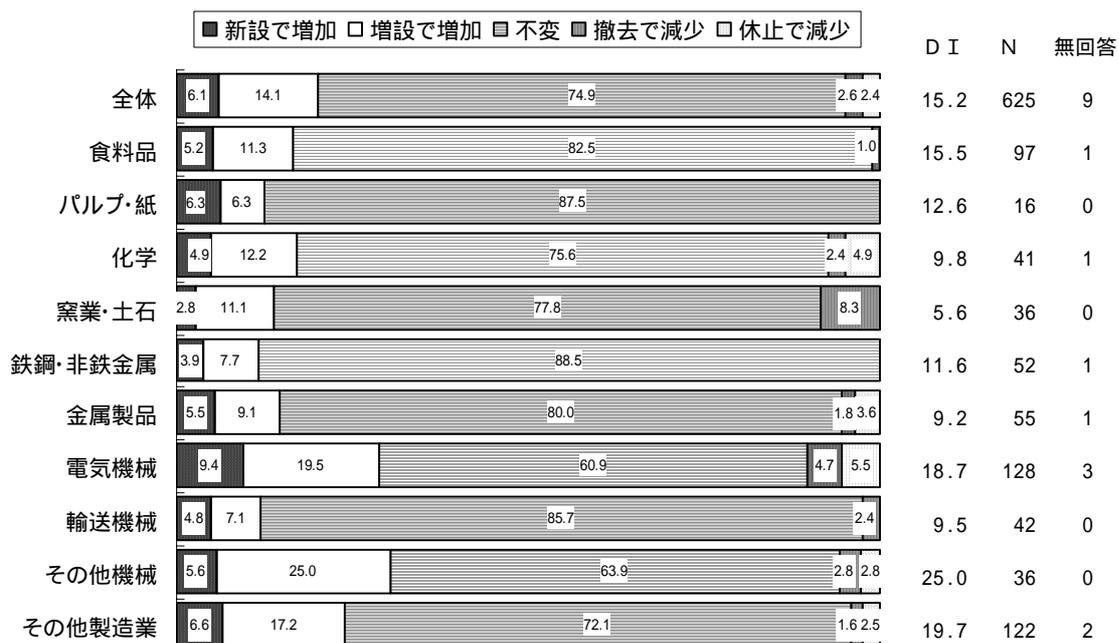


<業種別に見た生産設備>

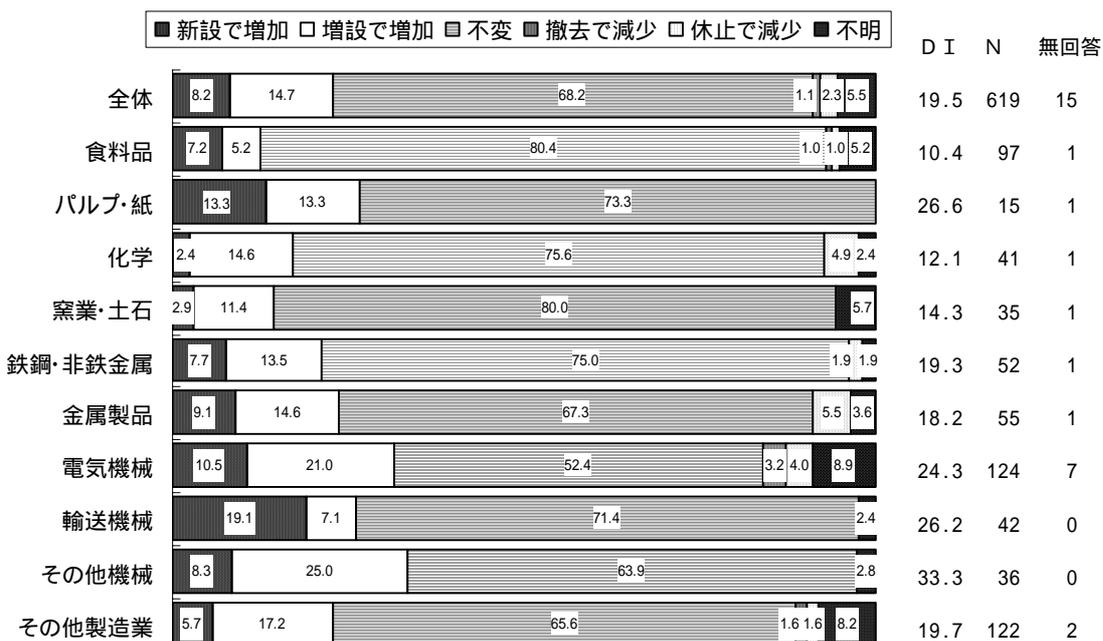
業種別で見ると、平成 15 年度下半期の生産設備(D I)は、全ての業種でプラスとなっており、中でも<その他機械(+25.0)>ではプラス幅が20以上と大きい。

平成 16 年度上半期の見通しは、全ての業種でプラスとなっており、中でも<パルプ・紙(+26.6)>、<電気機械(+24.3)>、<輸送機械(+26.2)>、<その他機械(+33.3)>ではプラス幅が20以上と大きい。

業種別：平成 15 年度下半期の生産設備



業種別：平成 16 年度上半期の生産設備の見通し

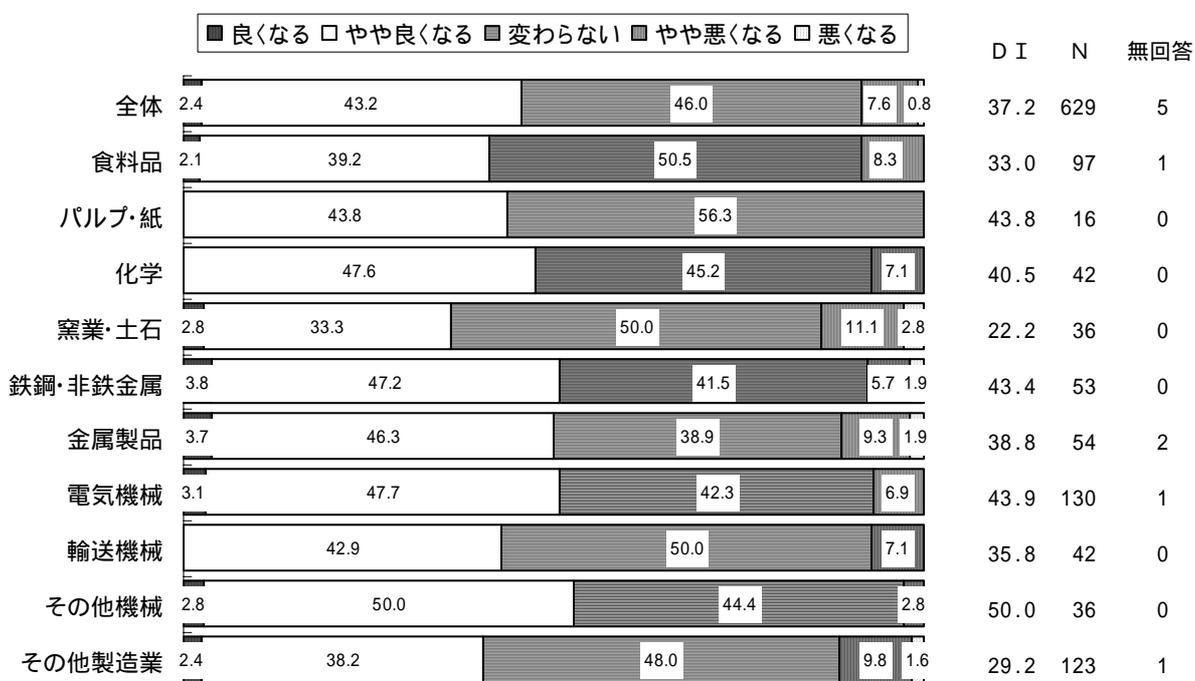


3. トピックス： 1年後（平成 16 年度末）の東北の景気見通し

1年後（平成 16 年度末）の東北の景気見通しについて見ると、「良くなる」が2.4%、「やや良くなる」が43.2%で、これらを合わせた『良くなる』が45.6%となっている。一方、「やや悪くなる」が7.6%、「悪くなる」が0.8%で、これらを合わせた『悪くなる』が8.4%となっており、D I（『良くなる』 - 『悪くなる』）は+37.2とプラスとなる見通しである。

業種別で見ると（D I）は、全ての業種でプラスとなる見通しである。

平成 16 年度末の東北の景気見通し



- 調査実施概要 -

調査実施期間：平成 16 年 4 月 1 日～4 月 23 日

調査対象数：1,000 事業所

有効回収数：634 件

有効回収率：63.4%

<回収内訳(業種別)>

<業 種>	構成比(%)	回収数(件)
1. 食料品	15.5	98
2. パルプ・紙	2.5	16
3. 化学	6.6	42
4. 窯業・土石	5.7	36
5. 鉄鋼・非鉄金属	8.4	53
6. 金属製品	8.8	56
7. 電気機械	20.7	131
8. 輸送機械	6.6	42
9. その他機械	5.7	36
10. その他製造業	19.6	124
合 計	100.0	634

<業種区分>

1. 食料品.....食料品製造業，飲料・たばこ・飼料製造業
2. パルプ・紙パルプ・紙・紙加工品製造業
3. 化学.....化学工業，石油製品・石炭製品製造業
4. 窯業・土石.....窯業・土石製品製造業
5. 鉄鋼・非鉄金属.....鉄鋼業，非鉄金属製造業
6. 金属製品.....金属製品製造業
7. 電気機械.....電気機械器具製造業，情報通信機械器具製造業，電子部品・デバイス製造業
8. 輸送機械.....輸送用機械器具製造業
9. その他機械.....一般機械器具製造業，精密機械器具製造業
10. その他製造業.....繊維工業（衣服，その他の繊維製品を除く），衣服・その他の繊維製品製造業，木材・木製品製造業（家具を除く），家具・装備品製造業，印刷・同関連業，プラスチック製品製造業，ゴム製品製造業，なめし革・同製品・毛皮製造業，その他の製造業